

〈原著〉

ピロクトン・オラミン配合シャンプー及びリンスの臨床評価(第1報)

渡辺 靖*, 横山美保子*, 山田晃司*
有間正敏**, 堀 泰治**, 定井正直**Clinical Evaluation of Hair Shampoo and Hair Rinse
Containing Piroctone Olamine IYasushi WATANABE, Mihoko YOKOYAMA and Kouji YAMADA*
Masatoshi ARIMA, Taiji HORI and Masanao SADAI**

Abstract

The antidandruff effects of Piroctone Olamine [1-Hydroxy-4-methyl-6-(2, 4, 4-trimethyl pentyl)-2 (1H)-pyridone Monoethanolamine salt] were investigated in the double blind clinical evaluation, using half head method. The tests were performed in severe dandruff persons.

Piroctone Olamine shampoos and rinse produced a great decrease in dandruff grade during a 2-week treatment.

Shampoos containing 0.75% and 1% Piroctone Olamine were significantly more effective than that of 1% Zinc pyrithione. And also hair rinse containing 0.3% Piroctone Olamine was significantly more effective than 0.3% Zinc pyrithione rinse.

要 約

ピロクトン・オラミンのフケ防止効果を二重盲検法によるhalf head法を用いて検討した。試験はフケ症の被験者で行なった。

ピロクトン・オラミン配合シャンプー及びリンスは、2週間の使用でフケの程度を顕著に低下させた。

ピロクトン・オラミン0.75%と1%配合シャンプーはジंकピリチオン1%配合シャンプーよりも有意な効果を示した。また、ピロクトン・オラミン0.3%配合リンスはジंकピリチオン0.3%配合リンスよりも有意な効果を示した。

から目に見える大きなかたまりとして剥離するものである。Kligmanら¹⁾は、フケ症者の場合、正常者にくらべ基底層の細胞が角化過程をへて角質層から剥れ落ちるまでの期間、すなわちturn overが早まっていることを指摘し、またVanderwykら^{2),3)}は、頭皮常在微生物である酵母Pityrosporum ovaleがフケの発生に関与することを指摘している。

著者らは、フケの発生に関しては、頭皮常在微生物や光、空気酸化により生成された脂肪酸や過酸化脂質等の刺激物質および生活環境から生ずる刺激物質等の外的因子がturn overを早め、不全角化を起し過剰な落屑を起させているものと、さらにこれに加えて